

令和5年度 東京・千葉地区2国立大学法人 公共工事入札監視委員会 議事概要

開催日及び場所	令和5年9月22日(金) 東京工業大学 千葉大学 ZOOMによるWeb会議により開催		
委員	委員長 清水 幹裕(弁護士) 委員 竹内 啓博(公認会計士・税理士) 委員 蟹澤 宏剛(芝浦工業大学教授)		
審議対象期間	令和4年4月1日から令和5年3月31日までに契約締結した案件		
	東京工業大学	千葉大学	(備考)
抽出案件(合計)	3件	3件	<p>前回開催した入札監視委員会以降、指名停止の措置及び再苦情の申立ては無し。</p> <p>抽出案件の個別審査に当たっては、委員長を含む全委員が対象案件の審議を行った。</p>
建設工事(小計)	2件	2件	
一般競争入札 (政府調達に関する協定対象工事)	0件	0件	
一般競争入札 (上記工事を除く)	1件	1件	
工事希望型競争入札	0件	0件	
通常指名競争入札	0件	0件	
随意契約	1件	1件	
設計・コンサルティング業務(小計)	1件	1件	
公募型プロポーザル方式	0件	0件	
簡易公募型プロポーザル方式	0件	0件	
簡易公募型プロポーザル方式(拡大)	0件	0件	
標準型プロポーザル方式	0件	0件	
一般競争入札	0件	0件	
随意契約	0件	1件	
公募型企画競争	1件	0件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問		回答
	別紙のとおり		別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし		

質 問	回 答
1. 東京工業大学及び千葉大学において発注した建設工事及び設計・コンサルティング業務について ・質問なし。	
2. 東京工業大学及び千葉大学における指名停止等の措置状況について ・質問なし。	
3. 再苦情処理会議への申立状況について ・質問なし。	
4. 建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議について <u>①東京工業大学(大岡山)本館改修電気設備工事(VI期)</u> ・過去に同様の事例で指名停止を行ったことはあるか。 ・総合評価落札方式の実績評価型を採用した理由はなにか。 <u>②東京工業大学(大岡山)総合案内所等新営工事</u> ・建物規模に対して、SRC造はオーバースペックのように思うが、何か理由があるか。 ・入札額が2回とも予定価格を超えているが、大学として予定価格は適正と考えているか。 ・どのようにして見積額が予定価格を下回ったのか。 ・同種工事の施工実績に、延べ面積300㎡とあるが、なぜか。 ・学内の基準があるということだが、その基準の設定方法はどのようになっているか。 ・基準に対して、例外的な要件を設定することは可能か。	・東工大では直近はないが、指名停止の報告をとりまとめている文部科学省では事例がある。 ・価格のみの競争だと、粗悪な工事が行われてしまう可能性があるため、総合評価落札方式を行うことが求められており、創意工夫が求められないような工事は、実績評価型を採用している。 ・建物規模は大きくないが、正門前の建物であり、意匠的に凝った造りのため、SRC造とした。 ・他の案件と同様に公共工事積算基準に基づき、物価資料や専門業者の見積書等から算出しており、適正と考えている。 ・最高の評価値で入札した者との不落随契協議の中で、予定価格と入札内訳書を比較したところ、直接工事費には差がなく、共通費に乖離があることが判明したため内容の確認を実施した。 聞き取りにおいて、不測の事態を想定して共通費を多めに見込んでいるとの回答があり、その点を協議することによって、予定価格を下回ることができた。 ・面積が300㎡に満たない場合は学内規定で300㎡とする下限を設けており、これを踏まえて設定した。 ・300㎡以下の建物の場合、小規模な建物となるが、一定程度の技術力を確保したいという意味で300㎡を下限として設定している。 ・下限の基準を設けてはいるが、不調・不落が多いこともあり、柔軟な対応は可能である。今回は技術的に難しい工事だったため、そのまま設定した。

質 問	回 答
③千葉大学(墨田)校舎(漢方研究所)改修電気設備工事	
<ul style="list-style-type: none"> ・一式工事を分離発注した場合、監理費は増額となるか。 ・分離発注したことで、当初の一式工事の予定価格を下回ったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発注業務としては3件に分かれるので手間はありますが、一式工事でも分離発注した工事でも監理費は同じである。 ・下回った。下請けの専門業者の確保が難しいという現状があり、場合によっては分離発注の方が金額が低くなるケースもある。
④千葉大学(亥鼻)急傾斜地対策工事	
<ul style="list-style-type: none"> ・応札者の評価点に差は生じたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・応札者2社の評価点は同点で、入札価格で差が生じた。
⑤東京工業大学(松風台)学生寮等整備運営事業に係るアドバイザー業務	
<ul style="list-style-type: none"> ・審査委員の構成、審査の流れはどのようなものか。 ・本業務の内容は仕様書の作成といったものか。 ・審査基準のうち、ワークライフバランスの認定状況とはどのように審査しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・審査委員は学内の委員5名で構成されている。学内規定に基づき、公募の時点では、仕様書で細かく指定せず、業務の内容を含めて提案を受けた。また、予算上限を示し、その中で最大限の提案を受けた。審査の結果、最高得点の者と随意契約した。 ・本業務では、フィジビリティスタディや最適なスキームを検討する導入可能性調査を実施するものである。仕様書の作成については、この導入可能性調査の結果に基づいて、別途契約するアドバイザー業務の中で、事業者の選定手続きに関する事項や仕様書となる要求水準書等を作成するという業務を実施する。 ・トライくるみん認定やくるみん認定といったワークライフバランスに関連する資格等に対して、採点の基準を設けており、申請者から提出される資格等の根拠資料を基に採点を行う。
⑥千葉大学(西千葉)講義棟(工学系)新営(建築)設計業務	
<ul style="list-style-type: none"> ・質問なし。 	

委員講評 (東京・千葉地区2国立大学法人全体について)
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な総括として、東京・千葉地区2国立大学法人共に問題なし。 ・発注者の創意工夫で不調・不落を回避できることもあるので、引き続きご検討願いたい。 ・来年度から働き方改革法案が建設業に適用開始となり、特に工期が厳しくなることが想定されるため、余裕をもって設定すること。 ・今後とも適切な契約業務を執り行うこと。